

2010年度の豪州産石炭価格

戦略・産業ユニット 石炭グループ 研究主幹 佐川 篤男

2010年度の豪州の日本向け石炭価格は、原料炭、一般炭とも大幅値上げで妥結した。高品位原料炭 FOB 価格は、2009年度価格の1.6倍の200ドル/トン、一般炭 FOB 価格は同1.4倍の97.75ドル/トンへの値上げとなった。

ここ数年、石炭の価格改定の振れ幅は大きくなっている。2008年においては豪州クイーンズランドを襲った豪雨により炭鉱の操業に大きな影響が出たこと、中国では豪雪により輸出を一時的に止めたこと等から原料炭、一般炭ともに供給がタイトになり価格が急上昇し、2008年度の価格は高品位原料炭 FOB 価格が300ドル/トン（前年度比3.2倍）、一般炭が125ドル/トン（同2.3倍）となった。2009年度は、リーマンショックによる経済低迷から石炭需要が落ち込み、高品位原料炭 FOB 価格は128ドル/トン、一般炭 FOB 価格は70ドル/トンに急落した。そして、2010年度の石炭価格は、冒頭に示したように再び急上昇に転じた。

特に中国の2009年の輸入量が2008年の4,100万トンから一気に1億2,660万トンまで増加したことが、今回の価格交渉に大きく影響していると思われる。炭種別に中国の輸入量をみると、原料炭が2008年の690万トンから2009年には3,450万トンに、一般炭が1,030万トンから3,860万トンに、無煙炭1,940万トンから3,440万トンに、その他石炭が430万トンから1,490万トンに増加した。なお、この増加は、中国国内の需給がタイトであること、国内炭価格より海外炭価格の方が沿海地域においては割安であること、また、日本を始めとする従来の需要国の輸入量が減り、アジア市場で石炭が余っていたことによると考えられる。

原料炭においては、昨年128ドル/トンで決定した後、中国とインドのスポット買いにより価格は上昇傾向を示した。更に、昨年12月後半からの中国の大雪の影響で中国のスポット輸入が増え、スポット価格は1月に入り190ドル/トンを超えた。このような状況で、原料炭輸入需要は、①日本や韓国では経済の回復とともに鉄鋼生産量が上向きとなることで原料炭需要が戻り始めている、②中国の輸入が2009年並みもしくはさらなる増加もありうる、③インドの輸入需要は今後も順調に増加する、などが考えられる。こうしたことから原料炭価格は上昇すると見られていた。さらに2月の豪州での断続的な豪雨により輸出量が減少し、スポット価格が急騰したことがBMA（BHP Billiton Mitsubishi Alliance）の提示した高品位原料炭200ドル/トンを飲む要因になったと考えられる。

今回の原料炭価格交渉で取り上げるべき大きなポイントがある。これまで、年度毎の交渉により改定される原料炭の価格は一年間の固定価格となっていたが、これに対して BMA が 4 半期毎の価格見直しを提示してきた。年間固定価格は、年間を通して安定した原料コスト（為替による変動はあるが）を維持するためのものであり、ユーザーである鉄鋼側はこの提示を受け入れられないと拒否した。しかし、豪雨の影響でスポット価格が BMA の提示した第 1 四半期（4～6 月）の価格 200 ドル／トンを上回り、また数量確保の問題もあり、第 1 四半期は 200 ドル／トンで妥結し、四半期毎に見直すかたちとなった。

実際、今年度第 1 四半期の価格が決定した後に原料炭は逼迫し、市場価格は 240～250 ドル／トンに上昇したといわれている。しかし、5 月に入り中国の輸入が予想ほど伸びていないこと、今後は中国国内原料炭需給が緩和されるなどの憶測により、市場価格は下降している。この状況下、第 2 四半期（7～9 月）の価格交渉が開始されようとしている。中国の動向によりスポット価格が変動し、価格交渉に大きな影響を及ぼすことは間違いないと思われる。なお、今回の価格交渉で、鉄鋼側は改めて年度固定価格を要請すると思われる。

一方、一般炭のスポット価格の動きをみると、同様に激しい動きをしている。最高で 190 ドル／トンを上回った 2008 年 7 月から経済低迷により需要が減退し、一般炭価格は 60 ドル／トン台まで下落した。その後価格は持ち直し、2009 年のスポット価格は季節による変動はあるが、上昇傾向で推移した。また、前述したように中国の豪雪の影響、豪州 QLD 州での断続的な豪雨により 2010 年に入り価格は上昇した。2010 年度の一般炭市場は、①落ち込んでいた電力需要の回復に伴い需要国の輸入量が増加すること、②中国の一般炭輸入が昨年並みの数量を維持すること、③インドの輸入拡大が見込まれること、等から需要が拡大し、価格も上昇すると見込まれ、スポット価格よりやや高めの 97.75 ドル／トンで妥結したものと考えられる。なお、一般炭の価格は、これまで通りの 1 年間固定価格で契約されている。この価格の決定後、スポット価格は上昇しており、100 ドル／トン前後で推移している。今後は、例年に通り夏の需要に向けての調達により価格は上昇が見込まれる。

お問い合わせ:report@tky.ieej.or.jp